

年次報告書

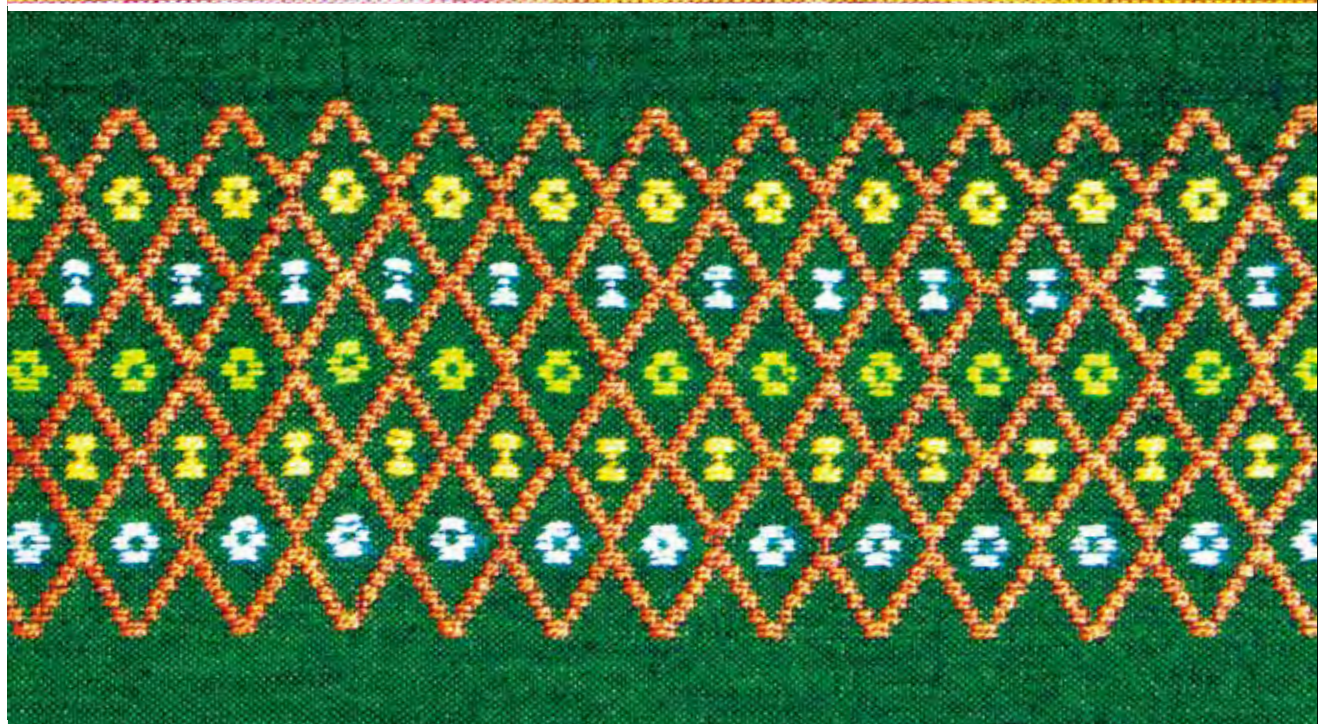
シャンティ国際ボランティア会

ミャンマーでの活動開始から10年。
子どもたちに寄り添い、希望を届け続けるために。

本
の
力
を、
生
き
る
力
に。



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.



135の民族が暮らす多民族国家のミャンマー。それぞれの民族が独自の伝統文化を継承してきました。ミャンマーの民族衣装のひとつに、ロンジーと呼ばれる巻きスカートがあります。一枚の布の端を縫い合わせて筒状にしたもので、正装でありながらも普段着として昔から愛用されています。ロンジーにも各民族それぞれ特有の模様があり、人々は色や模様の組み合わせを楽しんでいます。



ミャンマーでの 活動開始から10年

ミャンマーにおける教育課題の改善を目的に、2014年に活動を開始してから10年が経過しました。10年間で建設した学校は30校、78の図書館・図書室を設置、子どもたちは絵本に親しむようになり、教師たちは図書館運営の知識や技術を身に付けました。子どもたちの生活に本や図書館が定着してきた最中、2021年2

月に政変が起こり、ミャンマーは再び厳しい状況に陥っています。2021年8月に政変が起こったアフガニスタンの状況も未だ厳しく、2024年1月1日には能登半島地震も発生しました。困難に立ち向かいながら見えてきたのは、本を通じて子どもたちに寄り添い続ける意義でした。



取り組み

ミャンマーでの活動が10年を迎えるにあたり、広報誌『SHANTI』で特集を組みました。また、2024年12月にはミャンマーにおけるこれまでの活動を振り返るイベントを開催しました。10年間の活動を振り返り、その成果や現状の課題をお伝えしました。



イベントの映像はこちらからご覧いただけます

ごあいさつ

日ごろシャンティの活動を見守ってくださる皆さまに、国内外でのご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

昨今、人災・天災が頻発しています。2024年元日の能登半島地震に対し、シャンティは発災後まもなく支援活動を開始しました。その後9月には再び豪雨災害に見舞われるという苦難に遭遇し、被災された方々の悲嘆は計り知れません。シャンティとしてできることは限られていますが、可能なかぎり伴走していきたいと思っています。

海外事務所でも気候変動にともなう豪雨被害に対する緊急人道支援に取り組みしました。活動のもうひとつの軸である教育文化支援も成果を上げ、各国間で知見を共有しながら高めあっています。

現在もなお、紛争などにより子どもたちに学びの機会を届けることが難しい国や地域があります。しかしそんな場所こそ、シャンティが設立当初から掲げる、一人ひとりが尊厳ある生き方ができる地球市民社会を構築するという活動理念に立ち返り、前進する歩みは止めません。

シャンティはこれからも活動地の方々の声を聞き、「共に生き、共に学ぶ」心を共有し、活動に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会長

若林恭英



2024年のトピックス

「絵本を届ける運動」25周年

厳しい環境で暮らす子どもたちにも、読書の楽しさと学びの機会を広めることを目指して1999年から開始した「絵本を届ける運動」は、多大なるご協力を得ながら25周年を迎えました。この25年間で30万人以上の方に参加いただき、40万冊以上の翻訳絵本が子どもたちに届いています。25周年に際し、これまでの歩みや運動に関わる人の想いをまとめた25周年特設サイトを公開しました。また、翻訳絵本を届けた難民キャンプの子どもたちの様子や図書館活動について、オンラインイベントでお伝えしました。



イベントの映像はこちらからご覧いただけます



石川県輪島市で移動図書館活動を開始

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震において、シャンティは1月6日に国内緊急支援担当職員を七尾市に派遣。その後、輪島市からの支援要請を受け1月9日から輪島市門前町に活動拠点を構え、現在に至るまで避難所の運営支援、炊き出しや足湯活動などさまざまな支援活動に取り組んでいます。7月からは輪島市で仮設住宅を巡回する移動図書館事業を開始しました。



【訃報】役員 八木澤克昌氏

役員の八木澤克昌氏は、2025年1月7日に享年66歳で逝去いたしました。故人に賜りました生前のご厚意に謹んで御礼申し上げます。タイ国内にて葬儀が執り行われましたことをご報告いたします。



八木澤氏の追悼映像はこちらからご覧いただけます



社会の変化に応じて 役割を変えながら 子どもたちに寄り添い、 希望を届け続けるために。



事務局長

山本 英里



絵本を読む子どもたち（アフガニスタン）



中期計画策定ワークショップ

国内外の困難に立ち向かい、 本を軸とした支援にさらなる確信

2024年は1月1日に発生した能登半島地震から始まりました。シャンティは発災直後から国内緊急人道支援担当職員を七尾市に派遣し、その後は輪島市門前町に拠点を構え、さまざまな支援活動に取り組んでいますが、1年以上が経過した今もなお、復興は思うように進んでいません。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。一日でも早く、日常生活の復旧・復興が実現されるよう祈念しています。シャンティは7月から石川県輪島市で仮設住宅を巡回する移動図書館事業を開始しており、これからも引き続き支援活動を行っていきます。

2014年から教育課題の改善を目指して開始したミャンマーでの活動は、10年目を迎えました。活動当初は子どもの半数が小学校の最終学年まで進めない状況でしたが、僧院学校改善事業や公共図書館改善事業、学校に行けない子どもの支援事業など、シャンティが他国で行ってきた読書推進、図書館活動の経験をいかした事業を展開し、成果も上がっていました。しかし、2021年2月に起こった政変によって市民の生活は再び脅かされています。

2024年7月には、クーデター以降初めてミャンマーを訪れました。職員一人ひとりが厳しい状況に立たされており、先が見通せない日々が続いています。しかし、そんな状況下でも子どもたちに学ぶ機会を届け続けたいという、職員たちの強い想いを原動力に、粛々とできることを日々進めています。

ある時、海外職員の発案で、同じように困難な状況で活動続けるアフガニスタンとミャンマーの職員同士がつながり、国境を越えて経験や気持ちを共有する場が開かれました。日本人職員は参加することなく、宗教やバックグラウンドが異なる中で、両国の職員が痛みを共有し、励ましあう時間になったと報告を受けました。こうして海外職員同士がコミュニケーションをとり、困難を乗り越えていこうとする姿を見て、シャンティは新たなステージに上がったと感じました。

絵本を届ける運動25周年。本が果たす役割は変化し、 より子どもたちを支える存在に

1999年から開始した「絵本を届ける運動」は25周年を迎えました。

そもそも本がなく、読書に対する理解もない段階から、少しずつ本を届け、母語学習のサポートや図書館・図書室の設置、読み聞かせや図書館の管理・運営をするための教員向け研修の実施など、「絵本を届ける運動」の役割は年々広がっています。

活動国の発展に伴い、設立当初からシャンティの活動の軸にある「本」は、どのような役割を果たすべきなのか、見直す時が来ているのではと考えていました。しかし、再び発生している政変や紛争、頻発する災害などにより、さらなる困難な状況に陥る場所が出てきました。明日への希望を抱くことも難しい、眠れぬ夜を過ごす日々において、子どもたちの生活の中に存在するようになった本や図書館が、取り巻く環境が変わってもそのままあり続けるということが、どれほど子どもたちの心を支え、明日への希望になるか。私たちは長年の活動を経て知っているからこそ、社会の変化にあわせて役割を変えながらも、子どもたちに寄り添い続けていくべきだと再認識した1年でした。

よりよい事業を、いま必要としている人に 機動力を持って届けるために

事業は、計画段階でいかに地域の人をはじめ、あらゆる人と多くのコミュニケーションを重ねるかが質につながります。よりよい事業に必要な人に迅速に届けるために、海外事務所の職員たちが主体的に事業運営に関わる運営現地化の推進や、働き続けることができる職場環境の整備などにより、事業の質向上に向けて注力できる環境が整ってきました。

新しい中期事業計画（2025-2030）は、国内外の多くの職員が議論に参加し、2019-2024の成果を基に具体的なロードマップを策定しました。危機の多様化・深刻化に対応しながら持続可能な形で事業運営を目指し、特に「ひと」に関わる部分で、人材育成方針や給与と制度の見直しなどを進める予定です。

また、事業面・組織面ともに、新しい試みに躊躇せずに挑戦していきたいと考えています。たとえば、これまでは活動国ごとに課題を発掘してきましたが、これからは国という枠組みを超えて地域で課題を解決していく、自走できる資金獲得に向けた収益事業の推進など、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を実現して職員一同、決意を新たに進んでいきます。

中期事業計画（2019-2024）と終了時評価

2019年に策定した中期事業計画は2024年が最終年となり、役員と海外・国内を含む職員で終了時評価を行いました。

複雑かつ複合的な危機に対して長期的にコミットできる団体を目指し、資金面だけでなく、人材育成や事業構造の見直しなど、組織基盤の整備・強化に着手しました。支援を必要としている人々に、より機動力を持って支援を届けられる礎を築くことができたと考えています。

1 専門性を高め、新たな海外事業を展開します

シャンティが継続して取り組んできた絵本やおはなしの読み聞かせを軸とした読書推進、ライフスキル教育を強化し、

新たな海外事業を展開します。

- ・図書館活動のノウハウのパッケージ化、ノンフォーマル教育分野での活用
- ・国内外の緊急人道支援における図書館活動
- ・アジア以外での緊急人道支援、新しい国・地域における活動の展開

評価結果：B

新型コロナウイルスや活動国での政権交代などの外的要因が発生しましたが、計画には含まれていなかった国と日本での緊急人道支援事業を実施しました。2022年にはロシアによるウクライナとポーランドにおける緊急人道支援事業を開始しました。2023年にはトルコ地震において学習スペースの運営、子供が抱える学習面・心理面の悩みに寄り添う事業を実施しました。読書推進、ライフスキルを含む子どもの教育の専門性を高めるため、教育事業のリソースの体系化、ノンフォーマル教育に寄与する図書館活動のマニュアル作成、教育事業に関わる職員向け勉強会を継続的に実施しました。

提言・教訓

今期ではシャンティが長年実施してきた図書館活動のノウハウをパッケージ化することができました。しかし、普及においては課題が残りました。今後は、事務所間の知見共有の機会を増やすことで国を超えたノウハウの蓄積と展開が期待されます。また、外的環境の変化に伴い、NGOの組織のあり方、事業の実施手法が変化しているため、関係職員の能力向上に加え、コミュニティとのネットワークの強化、コミュニティのニーズに基づいた計画の立案が必要です。

2 日本国内での新規事業を推進します

シャンティが培ってきたアジアでの経験と学び、つながりを活かし、日本における子どもの貧困、外国ルーツの子どもたちが抱える課題を解決するため、日本国内での事業を推進します。

評価結果：A

2020年に外国ルーツの子どもたちを対象とした居場所づくり事業を開始しました。コロナ禍においては、オンラインで、子どもたち同士が自分のペースで交流できる場を設けました。2021年には外国人の集住地区である豊島区で包括的生活安定支援事業を開始しました。

提言・教訓

外国ルーツの子どもが増加する中で、居場所を提供するという計画は、社会的に妥当性が高かったと言えます。また、居場所づくりを起点に地域の支援者となつたり、コーディネーションにより、地域の資源を有効に活用することができたことに加え、重要性を再認識できました。包括支援は仕組みづくりを目的としており、ある程度の役割が果たせました。今後は自団体の専門性を強化すること、方向性を絞ることが必要です。

3 政策提言、パートナーシップを強化します

子どもの権利条約第28条・29条「教育の目的」達成に寄与することを目指し、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを強化します。

- ・読書推進を行う企業、団体との連携強化
- ・専門家とともに事業や活動成果の検証、効果測定、調査研究の結果公表
- ・活動地における教育政策の改善に寄与する提言書の作成
- ・市民が気軽に参加できる「絵本を届ける運動」ワークショップの推進、市民とのコミュニケーション強化

評価結果：B

ネパールでは、教育科学技術省と共同主催で、公共・コミュニティ図書館全国会議を開催し、図書館振興のための法整備や予算措置などの10項目を掲げた「カトマンズ宣言」が採択されました。JANICジェンダー平等推進ワーキンググループにコアメンバーとして参画し、ジェンダー主流化について研修会の実施に向けた準備に関わりました。市民が気軽に参加できるワークショップはコロナ禍においてオンラインでの開催が増加し、新しいコミュニケーション手法が必要になりましたが、状況にあわせて柔軟に対応できました。

提言・教訓

複数のネットワークに積極的に参画することにより、団体としての認知度、専門性が高まりました。今後もオンラインでのワークショップの開催が継続されることから、ワークショップの内容の更新が随時必要になります。政策提言においては、該当分野の既存政策および議論内容、これまでの経緯の十分な理解が必要であることから、専門職員の配置が望まれます。

4 組織の国際化を目指します

日本生まれのNGOとしてさらに事業を推進していくために、人材育成や多様な働き方の導入など、組織基盤を強化します。

- ・組織基盤の強化
- ・職員の能力開発、次世代リーダーの育成
- ・国を越えた国際職員の配置
- ・多様な働き方に柔軟に対応できる制度の整備
- ・国内外での認知向上、多様な財源の確保

評価結果：B

2021年に団体設立40年を迎え、シャンティの理念を体現する団体のロゴにリニューアルしました。同時にウェブサイトや広報資料も刷新しました。2022年には改定された運営現地化方針に沿って、海外事務所を中心とした人材育成計画を策定しました。海外を含む全事務所職員を対象としてセーフガーディングや教育事業に関わるオンライン研修会を実施しました。多様な働き方に柔軟に対応できるよう、職員就業規則、給与規定、育児介護休業規程、コンプライアンス・倫理規定などを改訂しました。

提言・教訓

各事業部門の実施者が、シャンティのミッションに沿い、すべき支援とは何かを熟考して事業立案を行い、事業を実施するサイクルができています。今後は新しい展開を開拓していく人材、部門、既存の支援の枠組みにとらわれない視点がより重要になるため、次期中期計画で検討します。

これまでの支援活動実績（2024年末まで）

実績1 学ぶための本や活動

	2024年	通算
絵本・紙芝居出版	9タイトル	687タイトル
届けた絵本	18,631冊	419,351冊
図書館利用者	390,991人	1,720万人



実績2 学びを届ける人

	2024年	通算
研修参加者	56回 / 2,502人	1,444回 / 62,464人



実績3 安心して学べる場所

	2024年	通算
学校建設	9校	465校
図書館・図書室設置	6館・室	1,071館・室



実績4 緊急人道支援

	2024年	通算
緊急救援出動回数	9回 ・海外7回 ・国内2回	117回 ・海外82回 ・国内35回

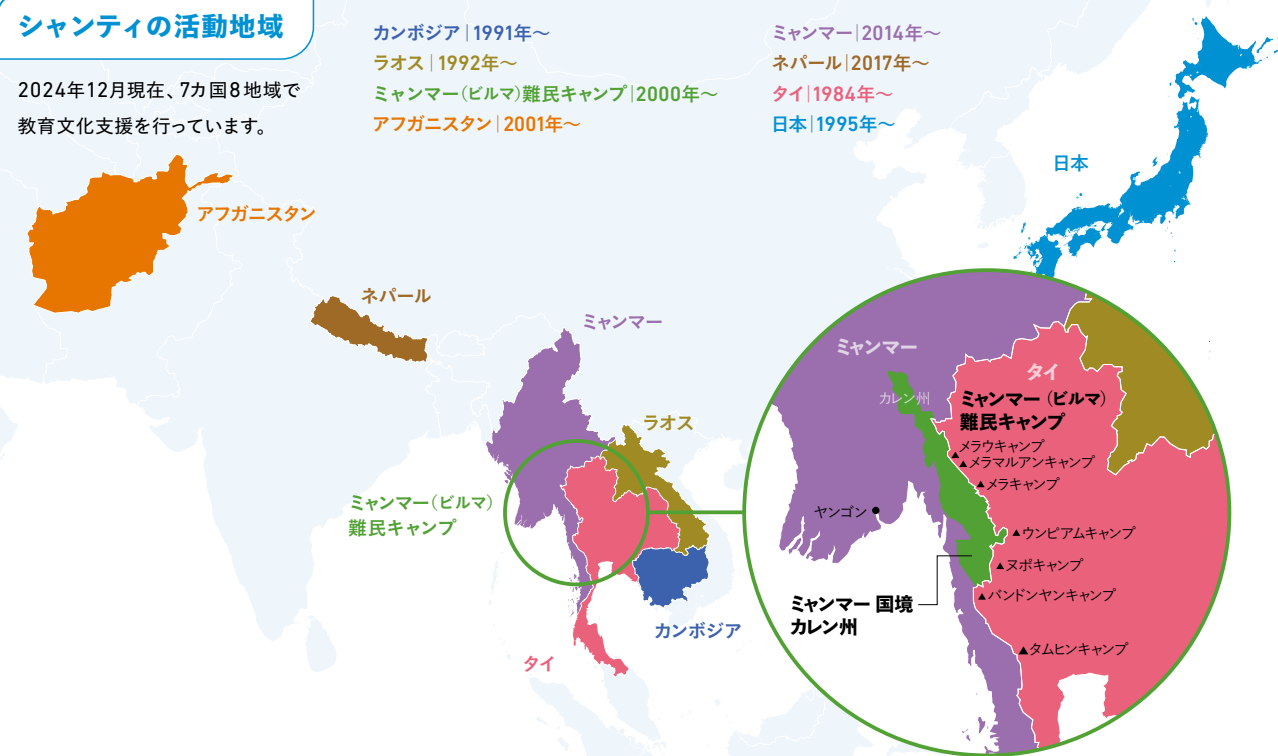


シャンティの活動地域

2024年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援を行っています。

カンボジア | 1991年～
ラオス | 1992年～
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～
アフガニスタン | 2001年～

ミャンマー | 2014年～
ネパール | 2017年～
タイ | 1984年～
日本 | 1995年～

Thailand
タイ

スラム、移民・少数民族居住地域で教育支援

8月にタクシン元首相の次女であるペートンタン氏が

史上最年少で首相に就任しました。この新政権下において、

タイに長期滞在している48万3,000人の移民と

タイで生まれた少数民族の子どもたちに対して

タイ国籍を与えることが10月に閣議決定されました。

シーカー・アジア財団では、今後も政府の移民政策に注目しながら事業を実施してまいります。

*シーカー・アジア財団(SAF)はシャンティの元タイ事務所で、シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。



実績

図書館活動参加者:

5,191人

奨学金支給者:

298人

国境移民支援

研修会参加者:

68人

学校建設:

1校



シーカー・アジア財団を通じた支援



シーカー・アジア財団を通じた支援



サトレ財団を通じた支援



シーカー・アジア財団を通じた支援*

1. 教育の機会改善事業

- ・中高生合計278人(バンコク23人、パヤオ県97人、ターク県158人)と大学生20人の合計298人に奨学金を授与しました。奨学生の選定のため、2月に対象3地域にて職員による家庭訪問を実施しました。前期奨学金授与式を6月に、後期奨学金授与式を11月にバンコク、パヤオ県、ターク県の3カ所で開催しました。
- ・奨学生の交流ワークキャンプを5月にバンコクで開催し、バンコクの奨学生28人と卒業生および社会人ボランティアの12人が参加しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・バンコクのスラム地区、サムットサーコーン県の25カ所にて計78回の活動を行い、4,821人の子どもと370人の教員が参加しました。
- ・サムットサーコーン県マハーチャイ地区の教員を対象とした絵本の読み聞かせ方法の講習会および工作のワークショップを1回実施し、22人が参加しました。
- ・活動先の1つであるマハーチャイ地区のワットシリモンコン学校に設置した学校図書館を継続支援しました。

事務局長メッセージ

シーカー・アジア財団

事務局長

ナリラット・

ターンジャンルンバムルンスック



2024年はタイでさまざまな出来事がありました。政治の混乱は依然として続いており、若い世代の首相が誕生したものの、選挙公約の実現性、社会問題への姿勢など、新政権に対して批判的な国民は少なくありません。9月には台風11号の影響により北部で断続的に強い雨が降り、大規模な洪水が発生しました。洪水被害は地域住民の生活だけでなく、経済や観光業においても大きな打撃となりました。

ミャンマー情勢の不安定さから、ミャンマー人の子供たちや労働者がタイに流入し続けています。タイ経済は外国人労働者に支えられているという側面がある一方で、SNSなどでは外国人との対立を煽る投稿が散見しています。

私たちは国籍を問わずタイで暮らす子どもたちへの支援を継続し、彼らが共存してタイ社会を支えていく未来の実現を願っています。

サトレ財団を通じた支援

ミャンマーからの移民が特に多いターク県では、移民学校が移民の子どもたちの教育の受け皿として機能しています。シャンティはサトレ財団と提携して、学校校舎建設と、学校運営指針の開発と対象校での導入を行いました。

1. ターク県の移民学校に通う子どもたちの教育改善事業

- ・ターソンヤン郡の移民学校にて学校校舎1棟とトイレ1棟を建設し、197名の児童・生徒(内女子97人)が新校舎の利用を開始しました。
- ・移民学校における学校運営指針を作成するためのワークショップを開催しました。



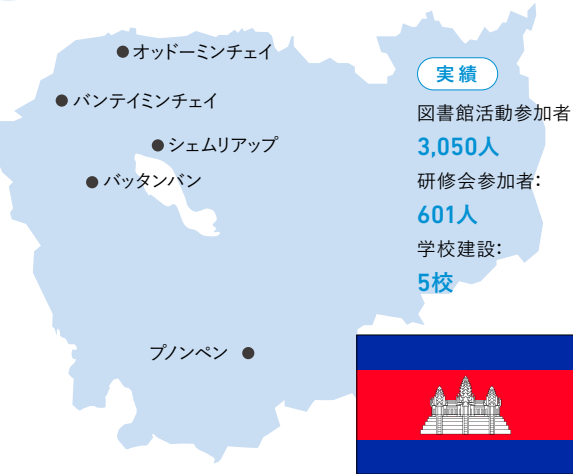
Cambodia

カンボジア

広がる教育格差の改善に向けた取り組みを継続

カンボジアでは、教育省により2024年から2028年の教育戦略計画が発表され、教育の質の改善に向けた取り組みが進められています。

2023年末にはモデル学校スタンダードが発表され、教育省による評価活動が行われており、基準を満たす質の高いモデル学校が増えてきています。教育改革が早いスピードで進む一方、都市部と農村部の教育格差は依然として大きく、特に農村部や僻地の学校における学習環境改善は喫緊の課題です。



事業

1. 「遊びや環境を通した学び」 実践のための基盤構築

- ・3種類の教員用ガイドブックが完成し、教育省から公式な副教材として承認されました。
- ・カンボジア全州の州教育局や中央幼稚園教員等に対して普及研修を行い、作成したガイドブックは全州に配布されました。
- ・パイロット地域の対象幼稚園における「遊びや環境を通した学び」実践状況の最終モニタリングとフォローアップ研修、事業評価、エンドライン調査を実施しました。

2. カンボジア北西部の公立幼稚園における幼児教育の質の改善

- ・オッドーミンチェイ州の公立幼稚園3園で、園舎建設・トイレと手洗い場の設置・園庭整備を行いました。
- ・オッドーミンチェイ州の教育関係者に対して幼児教育実践・啓発研修を2回実施し、計57人が参加しました。
- ・作成した幼児教育啓発のポスターやリーフレットを活用しながら、新学期や園舎贈呈式で保護者に対する幼稚園の活動説明会を行いました。

3. 学校建設

- ・バンテイミンチェイ州およびバッタンバン州の2校に、3教室の新校舎を建設しました。このうち1校にはトイレと手洗い場も設置しました。
- ・学校敷地利用計画図や校舎の維持管理にかかる研修会、植樹を行いました。

4. 読書推進活動

- ・国立図書館・国内の読書支援団体と協働して、読書推進活動や読書推進研修を実施しました。
- ・先行事業の補習推進事業の対象地域やコミュニティ学習センター（CLC）、幼児教育事業の対象園などに対して移動図書館活動を行い、計3,050人が参加しました。



カンボジア事務所職員

所長メッセージ

カンボジア事務所
所長
菊池 礼乃



新首相誕生から1年がたちました。カンボジアでは、経済成長・貧困削減が進み、2029年には後発開発途上国（LDC）からの卒業が見込まれています。教育分野では、2024から2028年の教育戦略計画が発表され、教育の質の改善が主要目標となっていますが、都市部と農村部の教育格差は依然として大きく、農村部での学習環境の改善は不可欠です。

2024年は、幼児教育事業、学校建設、読書推進活動を実施しました。幼児教育事業では、開発したガイドブックが全州に普及するとともに、地方州での幼稚園の環境整備を通じて就園率が大きく改善するなどの成果がありました。また、学校建設を通じて、地方の小学校の教室不足や学習環境を改善し、読書推進活動では、他団体と連携しながら、子どもたちの読書の機会を増やすことができました。これからも、子どもたちが安心して学べる環境を届けていきます。

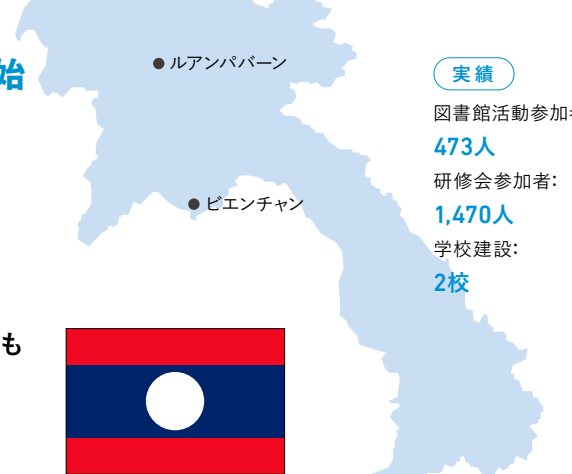
Laos

ラオス

少数民族児童のより良い学びを目指す新事業の開始

2024年は教育スポーツ省が中心となり、小学校1年生向けのラオス語学習に関するカリキュラムと教員向けのハンドブックが開発されました。ラオス事務所でも少数民族児童のラオス語習得をサポートする新しい取り組みが始まりました。

また学校建設活動、読書推進活動、学校衛生環境改善事業（WASH）も継続しており、さまざまなアプローチを通じて子どもたちの教育状況の改善を目指す活動を行っています。



事業

1. 学校建設

- ・2023年に建設した小学校3校の竣工後8カ月と1年後検査を行いました。また同校のうち2校の施設維持管理および衛生研修を実施しました。
- ・2024年に建設した小学校2校の施工50%と100%検査を実施しました。また同校のうち1校の施設の維持管理および衛生研修を行いました。また新たに2校の小学校の建設を開始しました。

2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・移動図書館活動を実施し、合計410人の児童、22人の教員、41人の地域住民が参加しました。
- ・2023年の5つの対象校に対して読書推進活動のフォローアップ研修を実施して、合計25名の教員や行政官が参加しました。
- ・5つの対象校に対して読書推進イベントを開催しました。
- ・ラオス語アルファベットを題材にした絵本を合計1200冊（1タイトル）出版しました。

3. 学校衛生環境改善事業（WASH）

設置したトイレ、水道、手洗い場などの施設の使用・維持管理状況と衛生活動の実施状況のモニタリングを対象校25校において実施しました。

4. 初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業

- ・少数民族児童のラオス語習得を補助するための指導・学習環境の改善を目指す新規事業をボンサイ郡・ムンゴイ郡2郡の22校を対象に6月に開始しました。
- ・8月と9月に村落教育開発委員会・教員・郡行政官とともに今後の研修の内容を計画する会議を実施しました。
- ・10月と11月に読書推進研修を実施して、合計80名の教員と村落教育開発委員会委員が参加しました。
- ・12月に図書室・読書コーナー開設のためのワークショップをボンサイ郡の対象校11校に対して実施しました。

所長メッセージ

ラオス事務所
所長
加瀬 貴



ラオスでは、少数民族の子どもたちに質の高い学びを届けることが重要です。同国は、深刻な教育格差を抱えており、地方や農村部では学校設備の不足や教師の人材不足が顕著です。また、近年のインフレにより、親の失業、教員の大量離職などの問題が深刻化しており、子どもたちの学びを妨げる大きな要因となっています。

ラオス事務所では、これまで進めてきた学校建設と読書推進に加えて、2024年から、少数民族児童のラオス語能力の改善に向けた事業を実施しています。学校を取り巻く地域社会と密接に協力しながら、子どもたちの学ぶ環境全体を支援していきます。

事務所の運営体制も一層強化されました。現地職員が副所長となり、地域のニーズに即した支援を自らの手で展開する体制を構築できるように努めています。これにより、ラオスの社会や文化に即した効果的な支援を実現し、持続可能な発展への貢献を目指します。

Afghanistan

アフガニスタン

図書館活動を通して、学びの希望を子どもたちへ

2021年8月の政変以降、中学生以上の女子の教育は

未だ再開されていません。長期化する国際社会からの制裁により、

教育現場で必要とされる支援は不足しています。

公共図書館との連携を強化し、教育の損失を少しでもくい止め、

これからも、子どもたちの希望が絶えないよう

安心して学べる空間を届けてまいります。

実績

図書館活動参加者：

89,967人

研修会参加者：

61人

仮設教室建設：

1棟

図書館・図書館設置：

3館

ヌーリスターン ● クナール
カプール ● ナンガハル



事業

1. 図書館活動などを通じた多様な教育機会の拡充と女子の教育アクセスの改善事業

- ・クナール県の対象小学校に仮設教室を建設しています。また、ジャララバード市の情報文化局管轄の子ども図書館1館およびカプール市の公共図書館2館の基盤整備を行いました。
- ・カプール市の公共図書館2館は12月より開館し、1か月で延べ4,720人の児童・生徒が利用し、貸出図書数は2,138冊でした。ジャララバード市の子ども図書館は1年間で3万8,646人の生徒が利用し、貸出図書数は7,619冊でした。
- ・完成した公共図書館ガイドブックを用いて、公共図書館の図書館員への研修を実施する予定です。

2. 子ども図書館の運営

- ・シャンティが運営する子ども図書館は255日間の開館中、4万4,206人(うち25.5%は国内避難民や孤児、障がい児など)の子どもが利用しました。
- ・読書推進のためのイベントを3回開催し、参加者は485人でした。政変以降、女子や国内避難民を中心とした不就学児の利用が増えています。

3. ヌーリスターン県における図書館推進事業

- ・ヌーリスターン県において図書活動普及のために試験的に新しい地域での活動を行っています。公共図書館3館の整備を行うとともに、子どもたち向けのスペースを新設したほか、図書館員の研修も実施しています。

所長メッセージ

事務局長 兼
アフガニスタン事務所 所長
山本 英里



2024年は、国際NGOによる教育支援の実施の制限により、学校現場へ支援を届けることが難しくなりました。シャンティは、地域住民を中心に運営をされてきた公共図書館との連携を強化し、子ども向けスペースの設置や、女性でも利用できるよう工夫を施した環境整備などを実施しながら、ノンフォーマル教育の機会拡充を図ってきました。初めて子ども向けの図書スペースが設置され、設置前は皆無だった子どもたちが、毎日100名近く来館しています。

また、隣国政府の難民受け入れ方針の転換から、約150万人もの難民が強制的に帰還せざるを得ず、その多くが国内において避難生活を強いられています。安定した居住環境が整わず、日雇い労働の収入に頼る避難民の方々への支援は急務とされています。

シャンティは、引き続き、アフガニスタンでの教育の機会の損失を少しでもくい止めるための教育文化支援と緊急人道支援を継続していきます。

Myanmar

ミャンマー

学びを止めないための教育活動を継続

2021年の政変以降、国内では全土で戦闘が続き、深刻なインフレの

影響も受けて人々の暮らしは一層厳しさを増しています。

学校が閉鎖している地域、また安全のために移動を余儀なくされるなど、

学習へのアクセスが困難な子どもたちがいます。

学校運営が行われていても教員数の減少や子どもたちの

心理的課題が見られます。より良い学習環境や

心の支えとなるような支援活動が求められています。

ネピドー ●
ビー ●
ヤンゴン ● ●
バアン ●



実績

図書館活動参加者：

57,484人

研修会参加者：

52人

図書館・図書室設置：

2館



事業

1. 西バゴー地域およびカレン州における学習環境改善事業

- ・西バゴー地域およびカレン州にて、校舎建設を完了した公立学校4校において、建設後の自主管理ができるようにするために対象校の教員や学校運営委員会に対し、能力強化研修や施設維持管理研修を開催し、合計42人が参加しました。また同4校にて本棚および750冊の図書を提供して図書館設置を行いました。
- ・西バゴー地域およびカレン州にて建設した学校2校に新たに設置した学校図書館を地域全体で運営・活用できるよう、対象校の教員へ2日間の学校図書館研修を開催し、合計10人が参加しました。研修では図書の分類方法や読み聞かせ方法、利用者数の記録方法を伝えました。参加した教員の関心は高く、図書館の意義、絵本の力、授業との連携などさまざまな内容を学びました。開館後はモニタリングを通じてOJT研修を実施し、日常サービスや運営の状況把握、指導を行いました。実践を通じて教員の図書館活動における理解は深まり、子どもたちが図書館を活用できる環境づくりが進みました。

2. 絵本・紙芝居出版

- ・児童図書出版委員会と連携し、学習教材としても利用できる絵本2タイトル、紙芝居2タイトルの出版に向けた準備を開始しました。絵本や紙芝居のテーマは伝統・文化、想像、勇気、冒険など多岐にわたります。委員会による第一ドラフトの制作が完了し、日本の絵本・紙芝居の専門家によるアドバイスを受けました。コメントを踏まえて内容を改善し、2025年の完成を目指しています。

3. 学校図書館普及のための基盤整備

- ・ネピドーの学校2校に学校図書館を設置し、計1,812冊の図書を提供しました。



ミャンマー事務所職員

所長メッセージ

ミャンマー事務所
所長
中原 亜紀



2024年、ミャンマー事務所は設立10周年を迎えました。厳しい状況が続く中でも多くの方々のご支援により支援活動を継続できていることに心から感謝申し上げます。NGOによる取り組みは年々厳しさを増しており、無力さを覚えることもあります。しかし、できうる限り支援を継続していかなければとスタッフ一同、力を合わせました。

校舎建設、図書館、紙芝居・絵本出版の活動を実施し、特に図書館が学びの場だけではなく、読み聞かせや絵本の世界を通じて安らぎの場となるよう環境づくりにも力を注ぎました。学校は教員不足による教育の質の低下が懸念されていますが、支援した学校図書館では校長先生を中心に教員が力を合わせ、子どもたちのために図書館活動に取り組んでくれました。小さくとも希望の光です。2025年も引き続き子どもたちが学びを続けられるように活動を実施していきます。

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

人々の心の安らぎの場所として図書館を継続

ミャンマーでの政変以降、難民キャンプやミャンマー・タイ国境地域は大きな影響を受けています。帰還プロセスは中断し、長期化するキャンプ生活に人々は将来への不安を抱き、タイへ逃れた人々の支援も今なお喫緊の課題となっています。

キャンプの課題解決のため、第三国定住の再開が開始されました。しかし依然厳しい環境が続いており、人々の安らぎの場となる図書館の運営を継続しました。

実績

図書館活動参加者：
232,349人
研修会参加者：
144人
絵本・紙芝居出版：
1タイトル(2言語)
2,000冊



事業

1. コミュニティ図書館運営

- タイ国内の難民キャンプにおいて、コミュニティ図書館の運営を支援し、年間利用者数は7キャンプ15館全体で23万2,349人(子ども15万3,782人、大人7万8,567人)でした。2023年よりも利用者が増加しました。
- 図書館15館に、大人用書籍9,840冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本6,306冊(カレン語、ビルマ語)、参考書1,890冊を配架しました。大人用ミャンマー語書籍の値上がりにより配布冊数が減少しました。
- 絵本1タイトル2,000冊(カレン語、ビルマ語)を出版し、図書館に配架しました。
- キャンプ内の学校やキャンプ内で活動する団体、合計93組織へ移動図書箱を使って本を貸し出し、合計545回利用されました。
- 7キャンプで、図書館員や図書館青年ボランティアに対して、読み聞かせ方法やお遊戯の手法を学ぶ研修を開催し、144人(男:51人、女:93人)が参加しました。
- 古くなった紙芝居やパネルシアター、カードゲームなどを再制作して各図書館に配布しました。

また、収録したアイスブレイキングやアクションソングなどの短いビデオクリップを図書館活動用に編集しました。

- 7キャンプで四半期会議や年次会議を開催、図書館委員会、教育委員会など関係者が集い、年間で合計531人(男性:210人、女性:220人)が参加しました。主に図書館員、図書館青年ボランティアから、さまざまな種類の読み聞かせ、新しいアクションソングやゲームの学び、人形劇の技術向上などのため、さらなる機会の要望が上がりました。各キャンプの経験豊富な図書館員の尽力により、予定されたすべての活動を無事に終えることができました。



ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所職員

副所長メッセージ

ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所
副所長
ジラポーン・ラウィルン(セイラー)



過去25年にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。難民キャンプの長期化により、第三国定住プログラムを、住民の80%が希望していると聞いています。これはキャンプの運営、支援活動に関わる人材の流出にも関わります。こうした不安定な環境が続く中、未だに多くの人々がストレスや不安と闘い、子どもたちの学習意欲は低下、メンタルの課題が深刻になっています。特に若者の間でアルコールや薬物乱用が増加しています。

自分たちの支援活動には限りがあり無力さを感じることもありますが、小規模であっても教育文化支援活動を継続するために最善を尽くそうと職員間で励まし合ってきました。教育が将来必ず良い変化をもたらすと強く信じています。今後とも変わらぬご支援を賜れますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

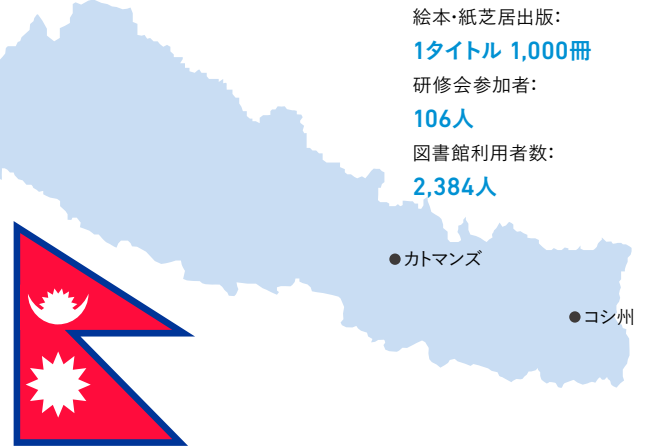
ネパール

コミュニティ図書館での活動が本格始動

2024年は3月と7月に二度の政権交代が行われ、政治的に不安定な状況が続いています。また例年より激しいモンスーンの影響で地滑りや洪水などの水害が各地で発生し、ネパール事務所も緊急人道支援活動を行いました。2023年から開始した事業において建設を進めていたコミュニティ図書館・リソースセンターが完成し、さまざまな研修が始まり女性や若者を中心とした多くの地域住民が学びの機会を得ています。

実績

絵本・紙芝居出版：
1タイトル 1,000冊
研修会参加者：
106人
図書館利用者数：
2,384人



事業

1. コミュニティ図書館能力強化事業

- コミュニティ図書館・リソースセンターを通じ、若者や女性をはじめとする地域住民のスキル開発や学びの機会の提供を目指す本事業。建設を進めてきた3館のうち1館の建設が完了し、竣工式を行いました。完成したセンターは図書室や児童室、コンピューター室、研修室を備えており、子どもから大人まで多くの住民が活用しています。また、ITや農業、食品加工、金属加工などの職業・技術スキル研修を行い、378人が参加しました。また女性や若者のライフスキル向上やエンパワメントを目的とした研修では223人がストレスマネジメントや問題解決、リーダーシップ、女性の権利などについて学んだほか、識字スキルに関する研修にも118人が参加しました。また1館目の自治体で地滑りの被害が発生したため、被災者に対する緊急人道支援活動を12月に実施しました。
- 残りの2館は2024年に建設を開始。今後の施設運営のため、センターの運営委員会メンバーの能力強化活動として、ほかの優良図書館・リソースセンターの視察や運営管理研修を行いました。

対象の3自治体においては地域の民話に基づく絵本の出版活動を行いました。活動においては地域のお年寄りが語る昔話や神話、歴史を子どもたちが聞きとり、ストーリーに合った絵を描くワークショップを開催しました。1館目の絵本は8月に完成し、竣工式にてお披露目を行いました。ほかの2館の絵本は現在、ストーリーと絵を絵本の体裁に整える編集作業を進めており、2025年度に出版予定です。



ネパール事務所職員

所長メッセージ

ネパール事務所
所長
萩原 宏子



コミュニティ図書館・リソースセンターでスキル開発研修を提供する新事業を開始してから約2年。昨年開催した1館目の竣工式では、老若男女多数の住民の皆さんが集い、地域の多様な民族舞踊が披露されるなど、ネパールらしいあたたかい式典となりました。式典後はライフスキル研修や職業・技術スキル研修が本格化し、コミュニティ図書館がまさに地域の学びの拠点となっています。

こうした活動で重要な役割を果たしているのが図書館運営委員会や地域のボランティアの皆さんです。中でもライフスキル研修に参加した若者たちは地域の発展に貢献するためグループを結成。12月に実施した地滑り被災者への緊急救援活動では、若者グループの皆さんがボランティアで活躍してくださいました。2025年も地域に根差した活動を実施していきたいと思います。

外国人支援の活動地域を拡大／地域との連携を推進

日本に在留する外国人の数は、2年連続で過去最高となりました。

岐路に立つ日本社会において、外国人の受け入れ態勢確立は急務です。2024年からは、東京都豊島区に加えて隣の練馬区にも活動を広げ、外国人支援を推進しています。

また、能登半島地震による甚大な被害を受けて防災への関心は高まる一方であり、地域における防災減災活動に取り組んでいます。国内の喫緊の課題解決に向け、地域と連携し活動を進めています。

実績

外国人支援フードパントリー・相談会

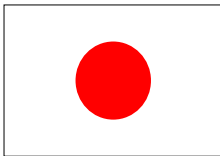
回数:15回

参加者:444人

防災減災活動

回数:1回

●東京・豊島区／練馬区



国内事業

1. 外国人の包括的支援事業

- ・地域の外国人支援体制強化を目指し、フードパントリー・相談会の開催、外国人支援スタッフの育成を軸とした事業を実施しました。
- ・東京都豊島区では「としまる」という名称で活動し、フードパントリー・相談会を12回開催。379名が来場しました。東京都練馬区でも「ねりんく」という名称で2024年3月から同様の取り組みを開始し、3回の開催で65名が来場しました。
- ・月1回の相談会に加え、月3回の外国人相談「としまる外国人相談窓口」を実施しています。この相談窓口は、個別相談を中心に、相談機会のさらなる創出により、支援アクセスの向上を目指しています。
- ・豊島区では行政との連携強化が進み、区役所を会場とした活動が始まっています。フードパントリーを10月に開催したほか、月3回の「としまる外国人相談窓口」のうち1回は、毎月区役所にて実施しています。

国内緊急人道支援活動

1. 防災減災事業

「宗教施設を活用した防災減災推進事業」として、寺院や関係機関と協力し、過疎の地域における宗教施設を活用した防災減災に関する研修、寺院の事業継続計画の策定に取り組みました。また、新宿区の寺院、社会福祉法人新宿区社会福祉協議会と連携し「新宿こども防災まちあるき」を開催しました。区内の親子に加え、高校生も参加し地図や写真を手に地域を歩きながら防災資源を探しました。その後、防災地図をつくり、非常食を使った「衣笠どんぶり」を参加者全員で試食しました。

2. 福島事業

引き続き、福島県南相馬市で福島大学災害ボランティアセンター（災ボラ）と協同事業を行っています。災ボラに所属する大学生が主体となり、復興公営住宅における地域食堂サロンの開催を通して地域交流活動を実施しました。

課長メッセージ

国内事業課
課長
鈴木 晶子



在留する外国人の数は毎年増え続けており、シャンティが活動を行う豊島区では世帯の12%が外国人となり、都内でも1位、2位を争う多さです。

事業を通して日本で暮らす在留外国人が抱える課題は就労、教育、言語、住居、医療等多岐にわたっていることを実感します。困窮した外国人を包括的に支援する体制は整っておらず、適切な支援につなげることができない状況があります。私たちはこれからも弁護士、社会福祉協議会、コーディネーターなど民間の支援力強化を目指しながら、行政連携の強化に取り組み包括的な支援を目指します。

防災減災事業においては、元日に発生した能登半島地震により家庭での備蓄のみならず、職場や地域における具体的な防災計画への関心が高まっています。度重なる自然災害への支援に加え、今年も地域における防災・減災の取り組みを他機関と連携して実施する予定です。

緊急人道支援

災害や紛争発生直後の緊急期において、生活するために必要な生活物資を配布します。また、子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。長期の避難生活においても基本的な人権を守るため、国際基準に則った活動を行っています。

海外での活動

ミャンマー

西バゴー地域およびカレン州における僧院学校を対象とした食料および衛生用品配布事業

2021年の政変以降、社会の混乱により1,300万人以上の子どもがさまざまな形で教育の悪影響を受ける中、コミュニティに支えられている僧院学校などに通う子どもたちを対象に、食料や衛生用品の配布を行っています。2024年は、西バゴー地域とカレン州において緊急食料・衛生用品の配布を実施しました。



衛生用品を児童・生徒に手渡しする様子（西バゴー地域）

アフガニスタン

生活困窮者および帰還民に対する緊急食料配布事業及び越冬支援

国民の半数以上が人道支援を必要としているアフガニスタンにおいて、2023年から実施している事業を通して、ヌーリスタン県において700世帯に食料を、クナール県で400世帯に食料と生活必需品を配布しました。また、ナンガハル県において、パキスタンからの帰還を余儀なくされた680世帯を対象に、食料と衛生用品の配布を行いました。



配布の様子

トルコ

ハタイ県の被災した子どもを対象にした教育支援

2023年2月に発生した地震により特に甚大な被害を受けたトルコ南東部ハタイ県において、コンテナを活用した学習スペースを運営するほか、子どもが抱える学習面・心理面の悩みに寄り添う相談支援を8月まで実施しました。



学習スペースで過ごす子どもたち

ウクライナ

国内避難民に対する生活再建支援および生活必需品配布

2022年から継続して支援を実施している中部のポルタヴァ州に加えて、南部のザポリージャ州を対象として、国内避難民に対する就職支援・ストレスマネジメントのための成人教育講座の開催と食料・衛生用品などの配布を実施しました。



ネイリスト講座の様子

ポーランド

カミエナ・ゴーラ郡における社会統合促進事業

ロシアによる軍事侵攻以降、積極的にウクライナ避難民の支援を続ける隣国ポーランドにおいて、既存の公共施設を改修して、避難民がホストコミュニティとともに教育や文化活動に参加できる環境を整えています。改修工事は2025年3月をめどに終えて社会統合センターとして開設予定です。



社会統合センターの竣工式の様子

ラオス

ルアンパバーン県における台風11号被災者における食料等の配布事業

7月下旬から続く大雨と9月上旬に上陸した台風11号により、ラオス全土で広域な被害が出ました。そこで、特に大きな被害の出たルアンパバーン県の828世帯の被災者を対象に10月から12月にかけて食料と生活必需品の配布事業を実施しました。



対象地まで川を渡る必要があるため物資を小型ボートに積みかえる

日本での活動

令和6年能登半島地震

石川県輪島市において、避難所運営のサポートや物資配布による環境改善、在宅避難者への配食、入浴・買い物支援バスの運行、サロン・足湯、家屋片付けなどニーズに応じた活動を実施しました。7月からは輪島市図書館と連携しながら、被災された方々が図書を通じて日常に戻るきっかけや交流の場づくりを目指した仮設住宅や公民館を巡回する移動図書館活動に取り組んでいます。



公民館での移動図書館

令和6年7月豪雨（山形県戸沢村での支援活動）

深刻な浸水被害が発生した山形県最上郡戸沢村において、戸沢村社会福祉協議会に開設された災害ボランティアセンターを通じ、浸水家屋の復旧作業に使用するサーキュレーターや、越冬のための暖房器具を届けました。



初動調査の様子



絵本を届ける運動

Campaign to Deliver Picture Books

日本の絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、シャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る翻訳絵本づくりは、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に活動を開始し、2024年に25周年を迎えました。

たくさんの方々に支えられた25年

25周年を記念してイベントを開催

1999年に開始したこの運動は、2024年度に25周年を迎えました。2024年10月には、活動を支えてくださるみなさまへ、感謝の気持ちを伝えるとともに、活動の歴史と実績を振り返りながら、絵本が持つ力について考えるイベントを開催しました。イベントは第1部の講演を対面とオンラインにて、第2部では対面にて翻訳絵本づくりと絵本の修正体験を行いました。

18,631冊の翻訳絵本をアジアの子どもたちへ

「絵本を届ける運動」を通して集めた翻訳絵本は、シャンティが支援する活動地に届けられます。これまでに届けた絵本は41万冊以上にもなります。2024年度は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ国境ミャンマー(ビルマ)難民キャンプへ、クメール語、ラオス語、ビルマ語、カレン語に翻訳した絵本を合計37タイトル・18,631冊届けることができました。

ワークショップを通じて広がる支援の輪

2024年度は、1万6,674人の個人、420組の企業・団体に参加いただきました。対面やオンラインでのワークショップの依頼を多数いただき、支援の輪をさらに広げる機会を持つことができました。参加いただいた方からは「この絵本を手にとってくれるのは、どんな子どもたちかな、と思いをはせながらシールを貼りました」や「改めて小さな子どもたちが絵本に接することはとても大切だと感じました」といった感想をいただきました。

実績

参加数	18,631冊 1,863件
タイトル数	37タイトル
出版社数	18社

2025年の
ラインナップは
こちら▶



絵本を手にした子どもたち

CRAFT
AID

クラフトエイド

〔フェアトレード事業〕

アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手づくりした商品を販売するシャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を大事にしたものづくりを行い、日本の皆さまにご紹介しています。

つくり手たちの想いをのせて

つくり手たちの安定した生活を支えるために

2024年度は、カンボジア、タイ、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー、日本の10団体に新しくタイで児童養護施設を運営している団体が加わり、合計11団体と一緒にものづくりを行いました。また、クラフトエイドのものづくりを支えるつくり手たちが暮らす東南アジア各国でも大雨による洪水被害が発生しています。浸水による一時的な店舗の閉鎖や、商品の水没などの被害にあった生産者団体を商品購入やSNSでの情報発信で支援を行いました。クラフトエイドでは、つくり手が自身の技術に自信を持ち、これからも継続してものづくりを行っていきける社会を目指していきます。

つくり手を身近に感じる活動

個人通販では658件、店舗卸売では59件の注文をいただきました。また、59カ所でクラフトエイドの商品を販売し、学校や企業の皆さまのご協力のもと、34回の委託販売を実施しました。ご購入いただいたお客さまからは「アジアの女性、子どもたちの支援をしたいので購入しました」「商品を購入することで、女性たちの自立を助けたいです」「伝統的なクラフトの技術を残していくことに協力できるので購入しました」というメッセージをいただきました。これからもつくり手と商品を購入されたお客さまの架け橋として、引き続きクラフトエイドの活動を広めていきます。

実績

取扱	27店
期間限定販売	59回
ご支援数	917件

つくり手たちの
手仕事を
ご覧ください▶



虹の学校ミニほうき



虹の学校



アジアの 図書館サポーター

〔継続的なご寄付による支援〕

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にご支援いただくプログラムです。皆さまのご支援が子どもたちの生きる力を育みます。

図書館はかけがえのない場所

2024年は新たに334名の方がサポーターに参加され、2024年12月末時点で2,478名の方に継続寄付のご支援をいただいています。ウェブサイトやSNSをきっかけに知っていただく機会が増えているため、活動国の現状や支援活動の様子がより伝わるような動画の制作、配信に力を入れました。サポーターの皆様には、活動国ガイド、年次報告書、会報誌『Shanti』のほかに、活動国6カ国いずれかの子どもたちからのメッセージカードをお届けしています。手書きのイラストは自然の風景や動植物、学校や絵本のキャラクターを描いたものまで毎年さまざま、メッセージからは図書館が子どもたちの大切な場所になっていることが伝わってきます。学ぶことが制限されているアフガニスタンの女の子は「以前は午前中に学校、午後に図書館に行っていました、今は朝から図書館にきています」と書いています。コロナ禍のことを思い出して、「図書館に行けることが本当に幸せです」という男の子もいました。活動国を限定しないアジアの図書館サポーターの皆さまからのご支援は、紛争や災害などが続く地域の子どもたちの学びを守るために幅広く活用しています。

実績

新規
サポーター

334名

ご寄付に
関する情報は
こちら▶



写真付メッセージカード

メディア掲載 |

ミャンマーや能登半島地震支援を中心に

新聞、雑誌など126媒体で掲載されました。内訳は、新聞71、雑誌20、そのほか機関誌、ネットメディアなど8媒体です。活動10周年を迎えたミャンマーや1月に発生した能登半島地震の緊急人道支援などに関し、現地の様子や活動の状況を取材いただきました。

掲載先(一部):朝日新聞／読売新聞／毎日新聞／東京新聞／中外日報／仏教タイムス／文化時報／中部経済新聞など

イベント開催 |

ミャンマー事務所10周年イベント

イベントを7回開催し、約150人に参加いただきました。昨年は多くのイベントを対面とオンラインの同時開催で実施しました。ミャンマー事務所

が設立10年を迎えたことを受け、12月のシャンティの設立記念日には、現地の関係者をオンラインでつなぎ、ミャンマーの教育に関わる専門家を招き、10年の活動を振り返るとともに、教育が抱える課題を考えました。イベントの様子はシャンティのYouTubeチャンネルからご覧いただけます。

講演 |

幅広い層へ講演・ワークショップを実施

97回、11,951名の方に向けて講演を行いました。学校からは13件、企業からは25件のご依頼をいただきました。また、曹洞宗の梅花大会を中心に寺院関連では37件ありました。対面でのイベント実施が戻ったことで、さまざまな公共機関や団体から広く一般の方に向けたワークショップや講演依頼を多くいただきました。



もので寄付する プロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

学びの機会をつくるお品物

2024年は、ご参加いただいた方から送っていただいたお品物により470万円以上の募金になりました。企業との連携により一部書店に古本の回収ボックスを設置しています。寺院関係の行事ではお宝エイド専用封筒を配布させていただきました。会報誌『Shanti』読者アンケートにご協力いただいた方より書き損じはがきや切手のご寄付にご協力いただきました。募金はアジアの子どもたちへ学びの機会をつくる活動に大切に使用しています。

実績

本・CD・ ゲームソフト	1,023件	合計	1,543件
商品券・金券、 書き損じはがき、 それ以外の 家に眠るお宝	520件	総額	4,708,323円

回収品の例

本・CD・ ゲームソフト	●書籍 ●コミック ●CD ●DVD／Blu-ray ●ゲームソフト、ゲーム機
商品券・ 金券	●全国共通商品券 ●ビール券／お米券 ●図書券／図書カード ●書き損じはがき ●未使用の切手／はがき
それ以外の 家に眠る お宝	●金・プラチナ・貴金属・宝石 ●ブランド品 (バッグ・食器・時計) ●古銭・古紙幣／金貨・貨幣 ●カメラ・レンズ ●楽器(ギター、管楽器) など



回収品の例



箱詰め

実績

メディア掲載

126媒体

イベント開催

7回 /

150人

講演

97回 /

11,951人

ご支援・ご協力・連携実績

2024年も、個人、団体からのご寄付に加えて、教育環境改善のための連携事業を実施しました。さまざまなご支援・ご協力を通して多くのみなさまに活動を支えていただいています。

ご支援・ご協力（掲載数字：2024年1月～12月）

アジアの図書館サポーター（ATS）

新規申込	334 人
合計	2,478 人 ＊2024年12月末時点

寄付

個人からの寄付	6,338 人 / 165,367,065 円
団体からの寄付	1,728 団体 / 255,705,263 円

事務所ボランティア

絵本を届ける運動	20 人
クラフトエイド	7 人

インターンシップ

広報・リレーションズ課	6 人 (内、東洋大学国際学部より2人、 鶴見大学文学部より1人)
地球市民事業課	1 人
事業サポート課	2 人

プロボノ・協力者

aurinco(アウリンコ)さん
岩崎 将之さん
きよはら えみこさん
江藤 孝治さん
高橋 明日香さん
高橋 彩さん
三上 悠里さん
沼田 智美さん
川畑 嘉文さん
保田 卓也さん
和田 元さん

事業連携

外務省「日本NGO連携無償資金協力」

ネパール

- ・コミュニティに根差した職業・技術スキル開発を通じた若者・女性の就労支援事業

アフガニスタン

- ・図書館活動等を通じた多様な教育機会の拡充と女子の教育アクセスの改善事業

ミャンマー

- ・ミャンマー西バゴー地域およびカレン州における学習環境改善事業

タイ

- ・タイ王国ターク県の移民学校に通う子どもたちの教育改善事業

カンボジア

- ・オッドーミンチェイ州の公立幼稚園における幼児教育のアクセスと質の改善事業

ラオス

- ・ラオス国ルアンパバーン県における学校衛生環境改善事業

ポーランド

- ・カミエナ・ゴーラ郡における社会統合促進事業

国際協力機構（JICA）

カンボジア

幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通した学び」実践のための基盤構築事業
(草の根技術協力事業 草の根パートナー型)

ラオス

- ・初等教育における少数民族児童の指導・学習環境改善事業
(草の根技術協力事業 草の根パートナー型)

アフガニスタン

- ・ヌーリスタン県における図書館推進事業

ジャパン・プラットフォーム（JPF）

アフガニスタン

- ・ヌーリスタン県における生活困窮者に対する緊急食糧配布事業
- ・クナール県における食糧・生活必需品配布による越冬支援事業
- ・ナンガハル県における帰還民への緊急食糧配布事業

ミャンマー

- ・西バゴー地域およびカレン州における僧院学校を対象とした食糧および衛生用品配布事業

ウクライナ

- ・ウクライナ国内の避難民に対する生活再建支援および食糧・生活必需品配布事業

トルコ

- ・ハタイ県の被災した子どもを対象にした教育支援

ラオス

- ・ルアンパバーン県における台風11号被災者に対する食料等の配布事業

後援

「絵本を届ける運動」「アジアの図書館サポーター」

- ・文部科学省
- ・公益社団法人 日本図書館協会
- ・公益社団法人 読書推進運動協議会

シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動을 続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

シャンティの理念

共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。

私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を目指します。

目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。

そのためには「1.学ぶための本や教材」、「2.学びを届ける人」、「3.安心して学べる場所」、そして「4.学びと出会うための活動」が欠かせません。



2030年までの達成を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む

「持続可能開発目標（SDGs）」の目標



組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

顧問

足立 房夫 一般社団法人協力隊を育てる会 顧問

阿部 豊淳 宮城県・光寿院 住職

小野田 全宏 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長

川原 英照 熊本県・蓮華院誕生寺 貫主
特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長

神津 佳予子 株式会社K0ZUstyle 代表取締役

白石 孝 荒川区職員労働組合 顧問
特定非営利活動法人日本ラオス子どもの未来 理事長

笛岡 賢司 静岡県・龍谷寺 住職

三部 義道 もがみ地産地消エネルギー 代表
山形県・松林寺 住職

早坂 文明 宮城県・徳本寺 住職

参与

服部 秀世 曹洞宗 宗務総長

小林 昌道 大本山永平寺 監院

渡辺 啓司 大本山總持寺 監院

理事・監事

会長 若林 恭英 里山教育機構株式会社代表取締役社長、
長野県・安楽寺東堂

副会長 茅野 俊幸 公益財団法人庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職

副会長 秦 辰也 ドゥアン・プラティープ財団 上席顧問、
シーカー・アジア財団 副理事長

専務理事 岡本 和幸 上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職

常務理事 松永 寛道 静岡県・宗徳院 住職

常務理事 横山 俊顕 曹洞宗総合研究センター 講師、福島県・安洞院 住職

理事 浅野 幸子 早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員

理事 有馬 嗣朗 あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職

理事 伊藤 弘泰 EARTH LABEL Inc. CEO
ポケット株式会社 営業顧問、
国立大学法人岡山大学・筑波大学 非常勤講師

理事 佐藤 真美 一般社団法人Earth Company 日本事務局長

理事 シュルツ ハ坂 由美 国際協力機構 専門家

理事 関根 隆紀 埼玉県・光秀寺 住職

理事 東海 泰典 シャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職

理事 直井 里予 国際ファッション専門職大学 専任講師
京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師

理事 村山 博雅 世界仏教徒青年連盟会長、大阪府・洞雲寺 住職

理事 山本 英里 シャンティ国際ボランティア会 事務局長

監事 中山 雅之 国土館大学大学院グローバルアジア研究科 教授

監事 野中 茂 公認会計士（野中公認会計士事務所）

専門アドバイザー

天野 教之 天野医院 院長

大菅 俊幸 曹洞宗総合研究センター 講師

鎌倉 幸子 かまくらさちこ株式会社 代表取締役

高田 博嗣 NHKグローバルメディアサービス 経営企画室 企画部長

手束 耕治 カンボジア宗教省仏教研究所 顧問

藤谷 健 国際基督教大学客員教授、朝日新聞with Planet シニアエディター

三宅 隆史 立教大学文学部 特任教授

国内における主な受賞歴

正力松太郎賞（1984年）

ソロプチミスト日本財団賞（1985年）

外務大臣賞（1988年）

毎日国際交流賞（1994年）

東京都豊島区感謝状（1995年）

防災担当大臣賞（2004年）

兵庫県知事感謝状（2005年）

第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」（2008年）

宮城県社会福祉協議会感謝状（2011年）

ESD岡山アワードグローバル賞（2015年）

スポーツ庁長官感謝状（2019年）

第14回かめのり賞 特別賞（2020年）

第28回読売国際協力賞（2021年）

第25回地球倫理推進賞（2021年）

文部科学大臣賞（2021年）

オッケンデン国際賞（難民・避難民のための事業部門）（2023年）

参加ネットワーク一覧

・ 国内
JANIC・アフガニスタンワーキンググループ／
NGO安全管理イニシアティブ（JaNISS）[世話人・安全基準管理委員]／ NGO外務省定期協議会／
NGO-JICA協議会／ NGO非戦ネット／ NGO-労働組合国際協働フォーラム／
SDGs市民社会ネットワーク／アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム／
開発教育協会（DEAR）[理事]／紙芝居文化推進協議会／
教育協力NGOネットワーク（JNNE）[事務局長]／国際協力NGOセンター（JANIC）／
市民社会スペースNGOアクションネットワーク（NANCIS）／
ジャパン・プラットフォーム（JPF）[幹事団体]／地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）／
震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）／世界宗教者平和会議（WCRP）／
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）／曹洞宗SDGs推進委員会／
多文化としまネットワーク／東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）[副代表]／
日本アフガニスタンNGOネットワーク（JANN）／日本NPOセンター／日本図書館協会／
日本ファンドレイジング協会／日本UNHCR-NGOs評議会（J-FUN）／庭野平和財団[理事]／
東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／仏教NGOネットワーク（BNN）[副理事長、事務局長]／
防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）

・ 海外

カンボジア

Cooperation Committee for Cambodia（CCC）／

Japanese NGO Worker's Network in Cambodia（JNNC）／

NGO Education Partnership（NEP）

ラオス

International NGO Network（INN）／

Japanese NGO Meeting（JANM）

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand

（CCSDPT：難民支援事業調整委員会）

アフガニスタン

Agency Coordinating Body For Afghan Relief（ACBAR）

ミャンマー

INGO Forum／

Japan NGOs Network – Myanmar（JNN-Myanmar）

ネパール

Association of International NGOs in Nepal（AIN）

全体

Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education（ASPBAE）[理事]／

Global Book Alliance／

The Asia Disaster Reduction & Response Network（ADRRN）

組織図

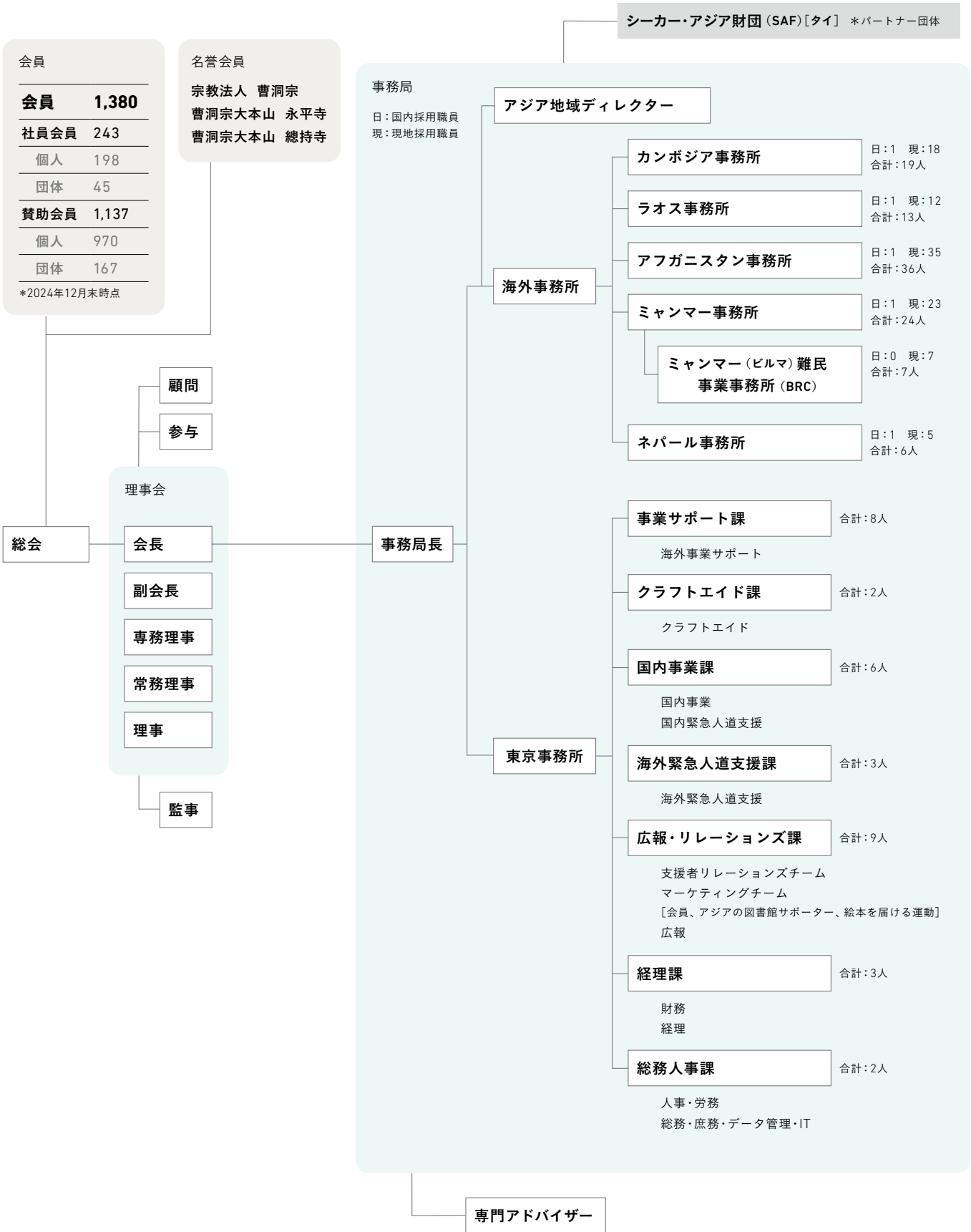
事務局員 138人

（SAF、インターン含まず）

国内採用職員 38人

現地採用職員 100人

*2025年4月1日時点



会計報告

貸借対照表 2024年12月31日現在

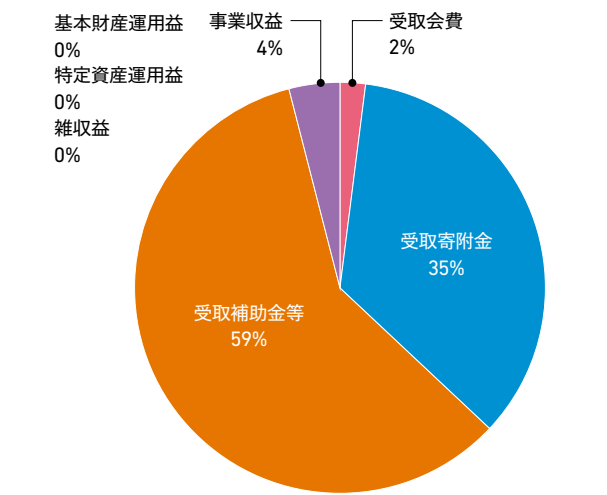
資産の部（単位：円）	
1. 流動資産（現預金等）	197,847,222
2. 固定資産	
（1）基本財産	50,000,000
（2）特定資産（特定預金等）	624,472,964
（3）その他固定資産（固定資産物品等）	17,996,898
固定資産合計	692,469,862
資産合計	890,317,084

負債の部	
1. 流動負債（預り金等）	50,931,598
2. 固定負債（退給引当金等）	102,919,318
負債合計	153,850,916

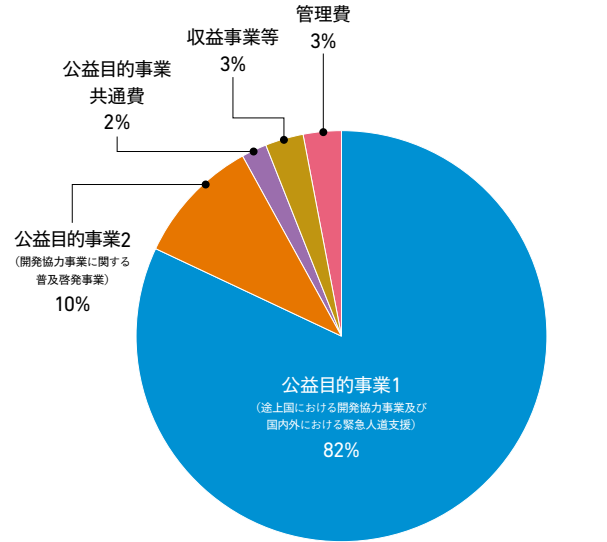
正味財産の部	
1. 指定正味財産	604,846,027
2. 一般正味財産	131,620,141
正味財産合計	736,466,168

負債及び正味財産合計	890,317,084
------------	-------------

収益



費用



正味財産増減計算書 2024年1月1日から2024年12月31日まで

一般正味財産の部（単位：円）	
経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	36,185
受取会費	20,423,000
受取寄附金	341,583,674
受取補助金等	570,098,569
事業収益（クラフトを含む）	34,899,459
雑収益	2,449,094
経常収益計	969,587,481
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業 1 (途上国における開発協力事業及び 国内外における緊急人道支援事業)	
タイ事業費	13,620,554
カンボジア事業費	107,099,137
ラオス事業費	55,905,180
アフガニスタン事業費	159,321,211
ミャンマー事業費	109,862,066
ネパール事業費	76,435,553
国内緊急人道支援	38,291,243
海外緊急人道支援	157,463,332
公益目的事業 1 共通費	57,318,815
公益目的事業 1 合計	775,317,091
公益目的事業 2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	36,163,066
広報事業費	39,231,735
国内事業費	21,649,994
公益目的事業 2 合計	97,044,795
公益目的事業共通費	19,603,245
公益目的事業合計	891,965,131
収益事業等	
クラフトエイド事業費	24,836,093
本で寄付するプロジェクト事業費	6,381,725
収益事業等合計	31,217,818
管理費合計	29,563,635
経常費用計	952,746,584

当期経常増減額	16,840,897
---------	------------

経常外増減の部	
経常外収益計	7,083,636
経常外費用計	14,719,398
当期経常外増減額	△ 7,635,762
税引前当期一般正味財産増減額	9,205,135
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	9,135,135
一般正味財産期首残高	122,485,006
一般正味財産期末残高	131,620,141

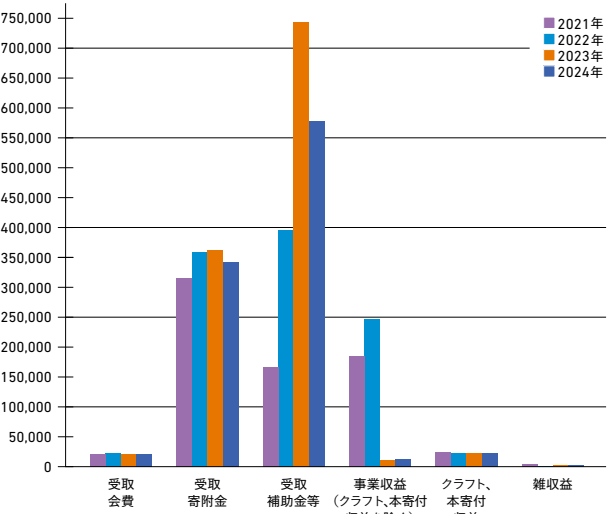
指定正味財産増減の部（単位：円）	
受取補助金等	138,850,432
N 連事業資金	216,130,851
受取寄付金	162,994,185
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	36,185
一般正味財産への振替額	△ 659,553,814
補助金返還金	△ 3,043,015
当期指定正味財産増減額	△ 144,487,676
指定正味財産期首残高	749,333,703
指定正味財産期末残高	604,846,027

正味財産期末残高	736,466,168
----------	-------------

年度別収益推移表（一般正味財産）

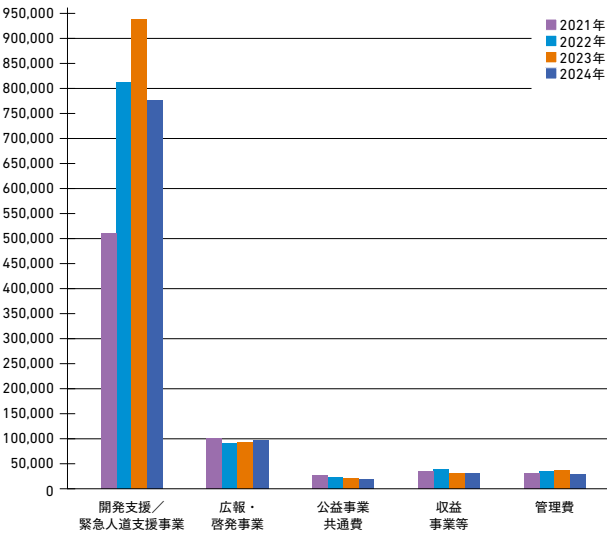
(単位：千円)				
収益	2021年	2022年	2023年	2024年
受取会費	21,457	21,909	21,052	20,423
受取寄附金	314,606	358,062	362,585	341,584
受取補助金等	165,503	395,915	743,502	570,099
事業収益（クラフト、本寄付収益を除く）	184,684	223,438	11,623	12,551
クラフト、本寄付収益	24,372	23,217	22,221	22,349
雑収益	3,363	1,157	2,988	2,582
合計	713,985	1,023,697	1,163,971	969,587

＊雑収益には基本財産・特定資産運用益を含む。| ＊2022年までは外務省NGO連携無償を「事業収益」に含めていたが、2023年以降は「受け取り補助金等」に移動。



年度別費用推移表

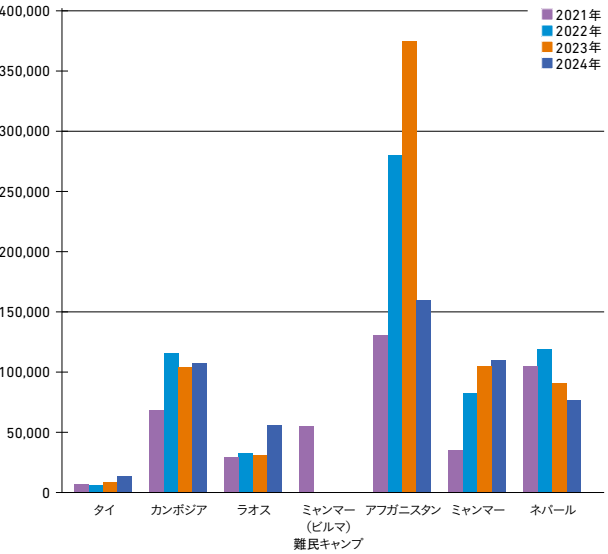
(単位：千円)				
費用	2021年	2022年	2023年	2024年
開発支援／緊急人道支援事業	509,453	809,802	935,860	775,317
広報・啓発事業	100,514	91,464	93,034	97,045
公益事業共通費	26,354	23,662	21,023	19,603
収益事業等	35,085	37,935	31,701	31,218
管理費	31,600	35,449	36,152	29,564



年度別支援事業費推移表

(単位：千円)				
	2021年	2022年	2023年	2024年
タイ	7,421	6,615	8,638	13,621
カンボジア	68,546	115,549	103,752	107,099
ラオス	29,235	32,907	31,162	55,905
ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ	55,404	0	0	0
アフガニスタン	130,529	279,229	373,745	159,321
ミャンマー	35,306	82,442	104,447	109,862
ネパール事業費	104,993	119,108	90,364	76,436

＊ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ支援事業は2022年よりミャンマー事業内で行うこととなった



独立監査人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2025年2月21日

田中義幸公認会計士事務所

東京都新宿区

公認会計士

田中義幸

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。

ここには表紙で紹介したロンジーとチン族の手織りのポーチが並んでいます。ミャンマー北西部の山岳地帯で暮らすチン族の人たちは、織物の技術が高いことで有名です。1本1本の糸を巧みに操り、美しい柄をていねいに織ります。チン族の手織りポーチはクラフトエイドで販売しています。

2024年度年次報告書
発行日：2025年5月1日
発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
デザイン：保田卓也
写真：川畑嘉文

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0001 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
URL <https://sva.or.jp/> Email info@sva.or.jp



詳しくはこちら <https://sva.or.jp/>

シャンティへのご寄付は税控除の対象になります。
詳しくは弊会またはお近くの税務署か税理士にご相談ください。

本文写真中の絵本 『しんせつなともだち』作：方 軼羣、訳：君島久子、画：村山 知義、出版社：福音館書店 | 『おおきなかぶ』再話：A・トルストイ、訳：内田 莉沙子、画：佐藤 忠良、出版社：福音館書店 | 『風の星』作・絵：新宮 晋、出版社：福音館書店 | 『じゃぐちをあけると』さく：しんぐうすすむ、出版社：福音館書店、『かなしみがやってきたら きみは』作：エヴァ・イーランド、訳：いとう ひろみ、出版社：ほるぷ出版 | 『きんぎょがにげた』作：五味 太郎、出版社：福音館書店 | 『ジオジオのかんむり』作：岸田 衿子、絵：中谷 千代子、出版社：福音館書店 | 『おかあさん』作：中村 徹、絵：せべまさゆき、出版社：佼成出版社 | 『いろいろバス』作：tupera tupera、出版社：大日本図書 | 『かおかお どんなかお』作：柳原良平、出版社：こくま社